

● 第8回多摩市自治推進委員会

平成22年1月20日 18:30~20:00

多摩市役所 特別会議室

出席者： 江尻委員長 磯崎副委員長 大木委員 金委員 益子委員 横倉委員

事務局： 企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査

傍聴者： 2人

審議

・多摩市行政評価報告書について

今後の予定

・第9回2月17日（水）

委員 それでは今日の議題である「多摩市行政評価報告書」とその概要版を見ていただき、担当者から説明を受けたい。次回も引き続きこの件について意見交換していきたい。

事務局 お手元の資料に基づき概略を説明し、次回の委員会にて意見を受けたい。行政評価報告書について自治推進委員会にお願いしたいことは、評価に対する検証ではなくて、行政の取り組みや報告書の分かりやすさ、市民の理解度などそういった点から、ご意見をいただき次の改善につなげていきたい。※以下、担当者より概要の説明（内容省略）

委員 それでは何か質問はないか。

委員 54ページの第4章の成果指標数はどこから出てきているのか。

事務局 重点目標Aで見れば、15ページからの重点目標Aに関する基礎データの個別目標ア～ウの成果指標と達成状況の表の中にある。

委員 参考資料の見方だが、左側に事務事業評価があって次に政策評価となっている。一方、冊子の4ページの図は三層構造になっていてシンプルで分かりやすいが、これと照らし合わせて5ページの方の差し込みの図との整合が分かりにくい。4ページの方の政策、施策、事務事業と分かれて、施策レベルがあると思うが24の個別目標の、この施策評価というのは横長の表でいう政策評価に入っているのか。

事務局 入っている。本編の5ページに平成20年度行政評価のしくみの中に、平成20年度の評価の取り組みは施策レベルから政策レベルまで政策評価として行った。4ページの方は一つの雛形になっていて、5ページは今年度の具体的な取り組みとなっていて、より具体的に書いてあるので、照らし合わせると分かりにくいかもしれない。補足をすると5ページは流れであって、4ページは三層構造の一番下が事務事業に対する事業評価、施策と政策については政策評価と表している。

委員 政策評価と一方でいいながら、施策評価はないんだと。それは広い意味での政策評価に入っているんだと言い換えなければならない分かりにくさがある。政策評価については事務事業評価の積み上げにはしていない。政策評価に対して成果指標をつくって評価している。市民の満足度を中心に政策評価は政策評価でやって、事務事業評価は事務事業評価でやっている。事務事業評価も積み上げにはなっていないのか。

事務局 8～9ページには事業カルテの見方が説明されているが、このカルテは一つ一つの個別事業について成果指標を設けて目的が達成されたかどうか個別に評価している。一方で政策評価というのは木に例えると森としていいのかどうかを評価するので、政策評価としては

別に指標を設けて評価している。

委員 この場合、2段階による積み上げではなくて全く違う材料で評価している。事務事業評価では高い評価が出ているのに、政策評価では評価が低いということもあり得るといふことか。木が1本1本良ければ森も良いと思うが、ここでは必ずしもそうではないということなのか。

事務局 個別事業では必要だからやっていることでも、全体で見ればもっと必要な事業がある場合がある。事業評価は絶対評価であって、政策評価は他との比較で全体でどうかという相対的に評価することになるので評価の視点が違う。

委員 そうであればこの図で分かりにくいのは、政策評価の結果を踏まえて毎年、次の予算に反映しているのか。むしろ事務事業評価をして次の予算に反映することなのではないか。市民の満足度如何で次の予算に反映するのは、ずいぶんレベルが違いすぎると思う。全体評価であっても事務事業評価によって予算をつくるのが必要なのではないか。

事務局 事務事業評価を踏まえながら政策評価をし、実際に予算に結びつけるのは政策評価から事務事業にブレイクダウンして行っている。

委員 議会で大幅に予算が削られた場合、予算が削られたから事業ができなくて評価の低い結果になったとは文言の中には書かれていないが、こうした説明はないのか。

事務局 議会には予算の修正権があり、修正すべき事項があれば修正し、それが決定事項として予算が動くのであるから、そのような理由を説明する報告書ではない。

委員 今回、私たちに意見を求められているのは、市民がこの報告書を見て分かりやすいか、もっと理解してもらうにはどんな改善点があるかについてで、ここに絵をいれたり表現をこんな風に変えたりといった意見を求めているということによろしいか。委員にはこの報告書の中に意見もあると思うが。意見を述べてもよろしいか。

事務局 これまでの意見も踏まえて今の報告書に至っている。説明では分かりやすさを強調したが、評価の仕方や妥当性など本質的なところでも意見を出してもらってよい。

委員 確認したいが、評価を見直す年度というのは予定されているのか。先ほど述べた政策評価と事務事業評価の関係だとか政策評価の指標の見直しとか、そういった中身に関する見直しは何年度にやるのか。

事務局 今の個別目標や重点目標、またはその柱立て自体が、第四次総合計画の後期基本計画「戦略プラン」で位置づけられているもの。その中で成果指標が出ている。その戦略プランは22年度が最終年度であり、来年の夏ごろから評価作業が始まるので、ここが今の指標の最終年度になる。新しい総合計画は23年度4月から始まるので、新しい基本計画に基づく新しい評価は24年度からとなるので、そこに評価に対する意見の反映ができると思う。

委員 23年度の評価から変わってきて、それまでは今の評価の形をとるといふことか。

事務局 出された意見については23年度を待たずに運用で変えられるものは改善していく。市で改善すべきと考えているのは、一つはこの評価作業がたいへん重たく負担となっていていかに簡素化すべきである。民間経験の視点から改善点のアドバイスを頂ければと思う。基本的には全ての事務事業をベースにしながらそれを横断的な形で見直しをしている。ある意味では丁寧で合理的なやり方だと思うが、行政の労力が重たいので簡素化したい。もう一つは先に話があったように、事務事業評価と政策評価との連続性または非連続性がある。これまで事務事業の評価で予算の反映を行ってきたが、財政状況が厳しい中で、どの

事業をスクラップしまたは伸ばしていくか、事務事業だけでは井戸の中に落ちた蛙であって、事業のスクラップを決められない状況である。そこで施策や政策といったもっと広い視点で、想定的に見て施策のどこを伸ばしどこを縮小していくか、こういう問題意識の中で事務事業評価と政策評価を少し色分けした2段階でやって予算を見ている。

委員 この評価書は誰に対して出すものなのか。

事務局 これは行政が自分で成績をつけたものを市民や市議会に報告するものである。

委員 65 ページ以降にあるように、評価一覧の有効性・必要性が A であっても方向性がなくなる事業もあるのか。

事務局 例えば時限的に終わらせるサンセット方式と呼ばれる事業があるが、これは期限がある中では有効性や必要性があったとしても期限がくれば終わったり、他の事業に変わったりすることがある。事務事業評価書は 400 事業を 2 冊でまとめたもの。この中を見れば個別の事業がどう評価しているのか分かる。

委員 この表だけでは評価の詳細は分からない。

事務局 個別にどんな事業があるのかそれに対して事務事業評価をどんな風にしてきたのか、この 2 冊の事務事業評価書にまとめてある。当然、事務事業評価を見た上で政策評価していく流れになっている。

委員 この報告書はすでに配布しているのか。冊子は有償販売で、ホームページにも掲載するのか。

事務局 報告書は正式なものとして出来上がっている。まずは自治推進委員会に見て頂きたい説明を行った。本日から有償で販売し、ホームページにも全て掲載する。

委員 感想を述べさせてもらう。今回のはとても良くできていると思うし、少し見やすくなったと思う。また意見を言わせてもらおうと 54 ページの第 4 章の部分、ここがダイジェスト版として言いたいことなのだと思う。56 ページの(4)は非常に重要な事が書かれていて、この冒頭の 4 行が本書の結論を述べているのではないか。そしてここで議論となる立脚する部分はこれ以降に書かれていて、成果指標は行政の活動実績の目標ではなく、目指しているあるべき姿の達成状況を測るものさしとして設定しているという、この文章はとても大事な所で、どうして本書の一番最初の取り組みの所ででてこないのかなと思った。市民が第 4 章を見れば、行政ではどのような評価がなされ事業に対してどう取り組んでいくのか大概理解できると思う。

事務局 この評価書は市民や市議会に報告するものであると述べたが、それぞれの分野ごとの取り組みにはどのように評価・分析をしたのか経過を説明する必要があった。しかし、これだけを読んでも市民には分かりづらいので、第 4 章で総括としてどこまで進んだのか、ここでは 100 点満点中 43 点しかとれていない、辛口だけれども最初の 4 行で述べさせてもらった。また、大きな課題として、成果指標のあり方について自治推進委員会から意見を頂いているので、読まれる市民に対して成果指標の設定の難しさを述べた。

事務局 いま意見を頂いた点でいえば、総括の所に使い方、ここの部分をうまく編集してダイジェスト版に反映させて市民に読んで頂くか。この辺が今後の改善点になるだろう。

委員 市民がその総括をまず見て、読む読まないがでてくるかもしれない。

委員 重点目標の ABC がそれぞれどういう状態なのか、第 4 章の総括を見ないとわからない。第 3 章の評価本編の中にはそれぞれの指標がどうなのか分かるが、A なら A に一つにまと

める結論がない。

事務局 全てを入れることができなかったが、ダイジェスト版3ページの3には優先分野3本柱でそれぞれどうだったのか書かせてもらった。そしてダイジェスト版の7ページから8つの重点目標がどうだったのか、ここは自治推進委員会からもっとグラフ等を使って見やすくした方がいいという意見をもとにつくった。市民から見て生活に関連がある分野で実際にどのくらいのお金でやったのか、代表的なものをあげて説明した。例えば8ページの所でAの重点目標では103億円かかりました、そして今後どうしていくのか、市民にとっては全体の評価よりも個別の評価のほうが関心をもってもらえると考えた。

委員 第4章総括の説明もグラフを入れて見やすくしたらどうか。例えば横棒によりこの分野は強いこの分野は弱いとかが見えてくる。そしてそれを同じようにダイジェスト版にものせた方がよい。

事務局 成績の良し悪しを包み隠さず出していきたい。また自治推進委員会でも意見のあった成果指標を世論調査だけで設定しているだけでは良くない。アウトプットがしっかり出せるものと結びつけていかないと、その時の雰囲気によって評価がガラッと変わってしまう。

委員 アウトカムをとるのは大事だが、行政の努力がアウトカムを支えている訳ではない。例えば安全に関して何か大きな事件があつて、これは市民が危ないよと言い出したら、ぐっと評価が低くなったり、いろんな要因が重なっているので、成果指標の分析が1年ずつやる必要があるのかと疑問に思う。ですから事務事業のアウトプットの指標と成果指標を両方合わせて評価した方がいいと思う。

委員 昨年も意見が出ていたが、事務事業の一つ一つの点検は市民にとってそれだけの力量と時間と熱意はない。これはスペシャリストがやらないとできないと思う。行政側のできていない所を明らかにしているのは、市民に考えてもらうのにいいコミュニケーションのツールになるのだと思う。細かい所でもう一つ、ダイジェスト版の5ページにある棒グラフの左側にある現状値というのがよくわからない。

事務局 これは戦略プランを策定した当時(平成17年度)の現状値で、確かに現状値だけだと年々動いているように見えるので、ここは17年度の数値と改めたい。

委員 本編の方が各ページの見出しに番号を付けた方がいい。それとタイトルが長すぎるので「多摩市戦略プラン重点目標 E」だとか文字数を少なくして「重点目標 E」にして、文字のポイントを大きくして見やすくしたらどうか。そしてそのページに(1)基礎データ(2)評価結果と表したらどうか。また、全体的に文字数が多い、担当者や担当課が自分たちが認識していることを表明しているだけに見える部分もあり、評価結果とはあまり関係がないのではないかと思うが、それはともかくとして言いたいことは、まず総括で最初の10~15行で、重点目標Eについて現状と結論、目標値や達成状況等を述べて、それを太枠とし、ここだけはぜひ読んでほしい部分とこれ以降は細かい部分は興味があつたら読んでほしい部分とに力点を分けた方がいい。文字の大きさを変えたり、ダイジェスト版同様、視覚に訴える効果も必要だと思う。

委員 差し込み図の中に見て欲しいページ数を入れた方がいい。もっと大きくしてA3で半分折ってほしい。年配の方にも配慮していただきたい。しかし、いろいろ改善・工夫すべき点はまだあると思うが、前回と比べるとたいへん見やすくなった。強いてあげれば、もう少し写真等を入れて市民に親しみやすく関心を持ってもらいやすく工夫したほうが

いいと思う。

委員 せっかく金額をいれたのだから、このお金が市全体の予算の中でどれくらいを占めているのかが分かるといいと思う。

委員 ダイジェスト版の配布はどうなっているのか。

事務局 ダイジェスト版は本編とセットで扱っており、これだけでは販売していない。

委員 ホームページでは載せているのか。

事務局 まだ載せていない。早急に本編と合わせてのせるようにする。

委員 先ほど、事務事業評価に時間や手間がかかると伺ったが、どのくらいの労力がかかっているのか、また職員の負担感など調査したことがあるか。例えば評価シート(カルテ)をつくるのにどれくらいの時間がかかったのか自己申告になると思うが、人件費がかかっているので評価作業の評価という観点からも必要だ。

事務局 負担感についてのアンケートはとったことがあるが、時間数についてデータはない。企画課だけで人件費を見れば 1000 万円はかかっている。これは予算カルテの作成から始まって決算そして評価へと、この作業は一つをつくるのにまる 2 年半はかかっている。

委員 同じ事務事業であれば、毎年同じ作業をしなくても変更すべき箇所だけ出せばよいのではないか。市民から見ても最初は関心があっても継続していくうちに興味がなくなり形骸化していく。職員の負担感はあると思うが、多摩市は丁寧によくやっていると思う。この事務事業評価が予算編成に反映されるのか。

事務局 そのとおり。

委員 そこができているのであれば労力をかける意味がある。よく評価と予算は別ものと切り分けられちゃうと、職員は予算を気にするから評価がなおざりになってしまう。

事務局 評価とプランが切れないように、評価と予算の価値判断、また原資と人員体制など、こうしたものを踏まえて 5~8 月までに次年度の経営戦略をつくっている。確かに評価に対する労力、内部的な管理事務として人件費が大きくなっているし負担が大きい。ここは評価疲れにならないよう、今後、評価についてはもっと見直しをしていかなければならない。

委員 なかなか言いにくい所も言って頂いた。今日は時間も限られているので、再度、報告書を見ていただき、次回に引き続き意見があれば言ってほしい。今日の発言主旨を事務局でまとめて頂き、次回も含めて意見交換したい。次回は 2 月 17 日とする。